5. ニシン建網の改良

この時期に、ニシン建網は行成網から角網へと大きく改良(※43)されました。

角網は、明治18年(1885)に発明され、明治23年(1890)に使用の許可を得てから急速にニシン漁が普及(※44)しました。

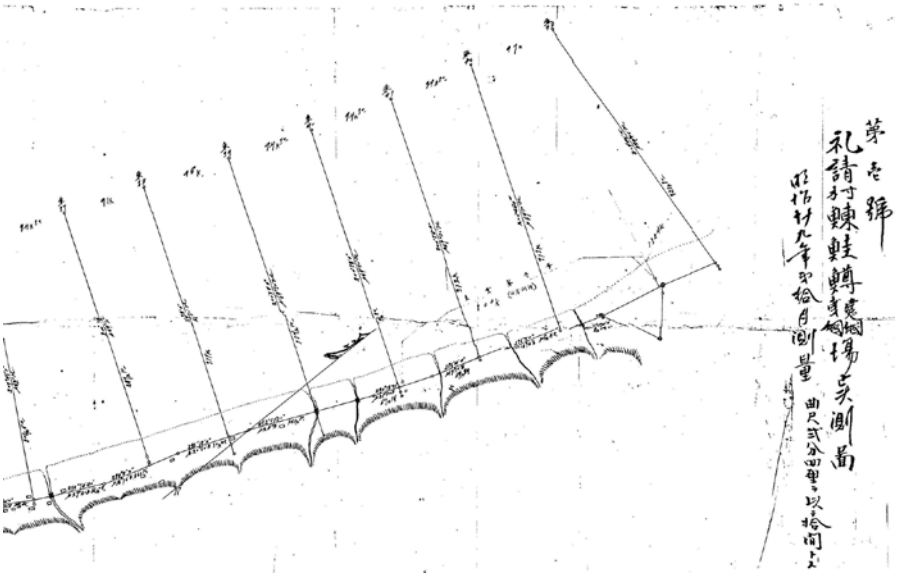
留萌の栖原漁場では、明治12～13年(1879, 80)頃に積丹古平あたりへ漁師を派遣(※45)し、角網を習わせ、明治24年(1891)から角網が使用されました。

※43　改良
不十分なものを改めて、一層良くすること。
※44　普及
広く一般に行き渡ること。
※45　派遣
命令して、差し向けること。

明治29年(1896)には、全道のニシン建網4,997統のうち1,974統が角網となりました。

角網が行成網より多く使用されるようになったのは、明治30年(1897)頃のことで、ニシン建網6,157統のうち、角網は3,017統となりました。

大正３年(1914)の留萌では、ニシン建網3,159統のうち、行成網は約70統となっています。



明治29年の礼受の建網場